

《平成 10 年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (第 1 種)

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)60 隻\*の平成 10 年漁期(平成 10 年 9 月~平成 10 年 5 月)の総漁獲量は 5,762 トン、総水揚げ金額は 24 億 5 千万円でした。1 隻当たりの出漁日数が 6 日(前年比: 5%増)増加したこともあり、1 隻当たり漁獲量は 96 トンで前漁期および平年(過去 5 年平均)を 15%上回りました。また、1 隻当たり水揚げ金額は 4,083 万円で前漁期をわずかに上回りました。

\*当漁業における県全体の操業隻数は 63 隻ですが、統計は平田市、温泉津両漁協を除いた 60 隻分の集計です。

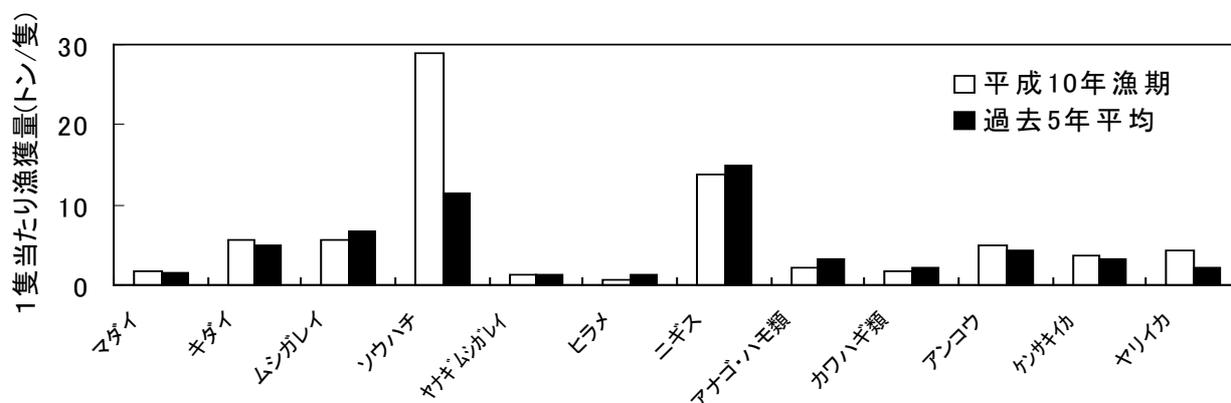


図 1 島根県小型底びき網漁業における主要魚種の動向。

**ソウハチ倍増！イカ類好調**

小型底びき網漁業における主要魚種の動向を図 1 に示しました。

近年増加傾向にあるソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 29 トンで前漁期の 1.7 倍、平年の 2.5 倍の水揚げがあり、平成 5 年漁期以降最高の漁獲となりました。特に 4、5 月は全体で 500 トンを越える水揚げがありました。この要因の一つとして、主漁場である大田市沖~日御崎沖の水深 100m での 3 月以降の水温が冷水塊の差し込みの影響により例年より低めに推移したため、漁場への来遊量が多かったことが考えられます。ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 5.7 トン、ヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 1.3 トンで前漁期をわずかに下回りました。

イカ類の 1 隻当たり漁獲量は全体的に平年を上回りました。前漁期不漁であったヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 4.2 トンで前漁期の 3.6 倍、平年の 2 倍の水揚げがありました。特に 10、12 月にまとまった漁が見られ、この 2 ヶ月で全体の 7 割を漁獲しました。近年資源的に高水準にあるケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 3.8 トンで 9~12 月にまとまった漁が見られました。

**ハタハタ急増！キダイ好調！**

ヤリイカ同様、前漁期不漁であったハタハタの 1 隻当たり漁獲量は 2.7 トンで平年の 1.7 倍の水揚げがあり、平成 7 年漁期に次ぐ好漁となりました。特に 3~5 月に集中して漁獲されており、好漁の要因として、ソウハチ同様冷水塊の差し込みの影響によるものと推測されます。主要種であるニギスの 1 隻当たり漁獲量は 13.9 トンで近年安定した水揚げがあり、資源的に高水準にあると推測されます。前漁期不調であったキダイの 1 隻当たり漁獲量は 5.6 トンで平年の 1.2 倍の水揚げがあり、前漁期を上回りました。一方、最近減少傾向にあるヒラメ、アカムツ、アナゴ・ハモ類はそれぞれ平年を 23~36%下回っており、来漁期の動向が危惧されます。

## 沖合底びき網漁業

### 県西部

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数6ヶ統)の平成10年漁期(平成10年8月15日~平成11年5月31日)の総漁獲量は3,063トン、総水揚げ金額は14億2千万円でした。1統当たり総漁獲量は510トンで前漁期を31%上回り、昭和62年漁期以来、久しぶりに500トンを越えました。また、今漁期は全経営体が2億円を越え、1統当たり総水揚げ金額は2億3,600万円の前漁期を15%上回り、最近10年間では最高の値となりました。

#### カレイ類平年下回る

ムシガレイの1統当たり漁獲量は35トンで平年(過去17年平均)を30%下回りました。ソウハチの1統当たり漁獲量は53トンで1~2月、5月にまとまった魚が見られました。不漁であった前漁期の1.9倍の水揚げがありました。一方、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は11トンで平年の2.3倍の水揚げがあり、昭和56年漁期以来、10トンを越える水揚げがありました。

#### ケンサキイカ近年最高!!

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は80トンで平年の1.8倍の水揚げがあり、昭和56年漁期以降最高の水揚げとなりました。漁獲のピークは8~10月、2~5月に見られましたが、特に2月には1統当たり12トンを越える水揚げがありました。一方、近年資源的に低水準の状態にあるヤリイカの1統当たり漁獲量は14トンで平年の20%に留まり、前漁期に引き続き低調な魚となりました。

#### キダイ・ニギス急増!

近年、増加傾向にあるキダイの1統当たり漁獲量は41トンで平年の5.3倍の水揚げがあり、また、ニギスの1統当たり漁獲量は56トンで平年の3.4倍の水揚げがありました。キダイ、ニギスは漁獲量が前漁期よりも大幅に増加し、昭和56年漁期以降最高の値となりました。

### 県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業(4ヶ統)の平成10年漁期の総漁獲量は1,633トンで前漁期をわずかに上回りましたが、平年を約10%下回りました。総水揚げ金額は8億7,780万円の前漁期を約10%下回りましたが、平年をわずかに上回りました。

#### ウマズラハギ・ソウハチ・ヤナギムシガレイ・ケンサキイカ好調

前漁期不調であったアカガレイ(235トン、平年比27%増)、ソウハチ(120トン、平年比62%増)は平年を上回り、アカガレイは平成8年漁期に、ソウハチは平成7年漁期に次ぐ高い値となりました。ヤナギムシガレイの漁獲量は101トンで平年の3.6倍の水揚げがあり、昭和61年漁期以降最高の水揚げとなりました。また、ケンサキイカの漁獲量は95トンで前漁期の2.8倍、平年の1.3倍の水揚げがあり、漁期を通して好調に推移しました。この他、ウマズラハギ、キダイ、アンコウは平年の1.5~2.3倍の水揚げがありました。

一方、前漁期取替であったマダイが今期は低調であり、前漁期49%減の37トンに留まりました。この他、ムシガレイ、メイタガレイ、ヒラメが前漁期を20~33%下回りました。

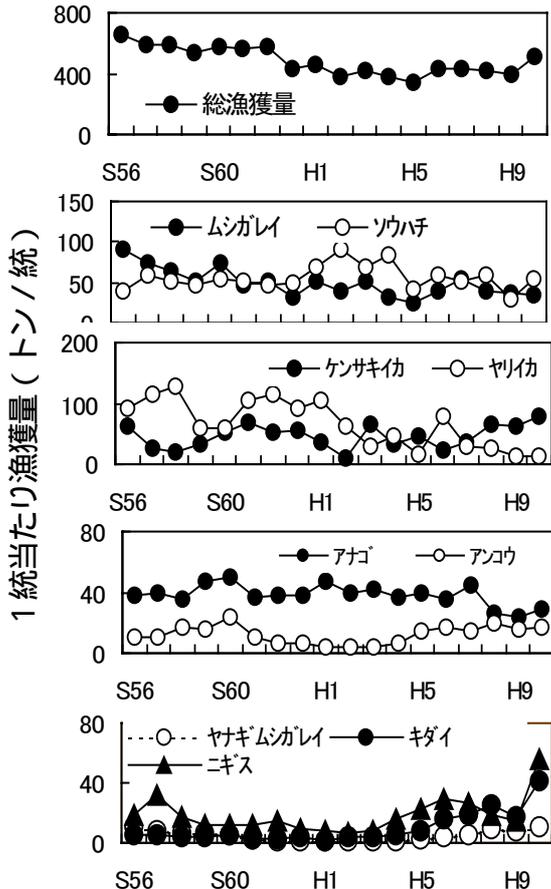
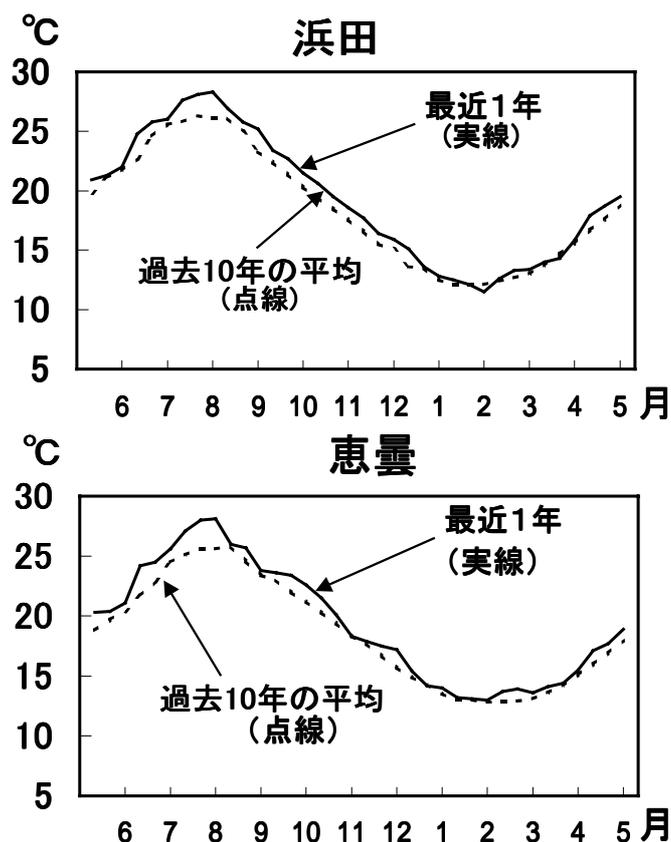


図2 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向。

## 《 5月の海況 》



定地水温

5月	月平均	平年差	評価
浜田	18.7	+1.0	かなり高め
恵曇	17.9	+0.9	やや高め

5月の月平均水温は4月に比べ浜田で4.0、恵曇で3.2 上昇し、浜田では平年に比べ「かなり高め」、恵曇では平年に比べ「やや高め」の水温経過となりました。

島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果(5月下旬~6月上旬)によると、山陰海域の水温は冷水域の周辺では平年より低く、山口県沖合海域表層では平年よりもかなり高めとなっていました。ほぼ全域で各層とも平年よりやや高めとなっていました。

また、6月の山陰海域の水塊配置は、4月下旬に観測されていた日御碕北西の冷水塊が沿岸域に張り出していたのをはじめ、その他にも冷水域が狭い海域に多数発達しており、非常に複雑な水塊配置となっていました。

## 《 5月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は216トンで、前年の4%、平年の5%と、極めて低調に推移しました。水揚金額は前年の57%とこちらも低調に推移しました。漁獲の主体はマアジでした。また、恵曇ではカタクチイワシ、マアジ、マイワシを主体に600トンの漁獲がありましたが、前年の17%にとどまりました。浦郷でもマアジ、マイワシ主体に2,228トンの漁獲があり、前年の35%の漁獲となりました。

### 【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲量は、スルメイカ(25~30入り主体)を中心に9,341箱で、前年の145%、平年の142%と好調に推移しました。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、スルメイカ(20~25入り主体)を中心に13,250箱の漁獲があり、前年の63%、平年の95%と好調だった前年は下回ったもののほぼ平年並みに推移しました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はスルメイカを中心に85.2トンで、前年の152%と好調に推移しました。

### 【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は311トン、水揚金額は1億6,740万円でした。また1統当たり漁獲量は52トン(平年比:19%増)で、昭和60年漁期以来、50トンを越える漁獲がありました。水揚金額は2,791万円(平年比:42%増)で、5月の水揚金額としては昭和56年以降最高の値となりました。ソウハチ、スルメイカ、ムシガレイ、アナゴを中心にまとまった漁が見られ、全体的に平年を上回る漁獲がありました。

恵曇港の総漁獲量は120トン(平年比:10%減)、水揚金額は5,835万円(平年比:24%減)で、量・金額とも平年を下回っています。魚種別では、ムシガレイ、ソウハチ、メイタガレイ、ヒラメ、キダイ、アナゴは平年を40%程度下回っていますが、ケンサキイカ(平年比:2.7倍)、ヤナギムシガレイ(平年比:4.8倍)、アンコウ(平年比:

2.2倍)はまとまった漁が見られ、平年を大きく上回りました。

**【小型底びき網漁業】**

和江漁協における水揚げ状況は、出漁日数が前年より14%減少したものの総漁獲量は476トン(前年比:144%)、水揚金額は1億3,655万円(前年比:102%)で、量・金額とも前年を上回っています。漁獲の主体はソウハチで前年の2.7倍の水揚げがありました。またムシガレイ、ハタハタがまとまって漁獲されました。

大田市漁協における総漁獲量は164トン(前年比:80%)、水揚金額は5,830万円(前年比:90%)で、量・金額とも前年を下回っています。漁獲の主体はソウハチ(前年比:64%)、ニギス(前年比:72%)ですが、前年を下回っています。この他、ムシガレイ、ハタハタがまとまって漁獲されました。

**【定置網漁業】**

県下全域で、前月に比べて、漁獲量、生産金額とも増加しています。浜田では、ブリ、ケンサキイカ、アオリイカが好調で生産金額は前月および前年同月をそれぞれ60%、10%上回りました。恵曇では、マアジの漁獲量が急増し、総漁獲量は前月の135%増、生産金額も37%増となっています。浦郷では、ブリ、ヒラマサ、クロマグロ、イサキといった高級魚の漁獲量が増加し、生産金額は前月の48%増となっています。また、マアジが大量に水揚げされた前年同月と比較しても生産金額は62%増と好調でした。

**【釣・縄】**

出漁日数はやや減ったものの、ブリ類などの好調に支えられ、沿岸の釣は前月を上回り、全体的にほぼ平年並みの漁模様でした。浜田はブリ類、アマダイ、ケンサキイカ主体で漁獲量42.4ト、水揚げ金額2,810万円と量・金額ともに前年を上回りました。五十猛はカサゴ類、スルメイカ、アマダイ主体で、漁獲量14.7ト、水揚げ金額1,130万円と漁獲量は前年並みだったものの水揚げ金額がやや減少しました。

**漁獲統計**

平成 11年5月1日~31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	42	マアジ	5ト	216ト
	恵曇	63	カタクチイワシ・マアジ・マイワシ	10ト	600ト
	浦郷	74	マアジ・マイワシ	30ト	2,228ト
イカ釣り	浜田(沖合)	201	スルメイカ	65.9箱	13,250箱
	浜田(沿岸)	224	スルメイカ	41.7箱	9,341箱
	西郷	634	スルメイカ	131kg	85.2ト
沖合底びき網	浜田	30	ソウハチ・スルメイカ・ムシガレイ	51.9ト	311ト
	恵曇	36	メイタガレイ・スルメイカ・ケンサキイカ	3.3ト	120ト
小型底びき網	和江	387	ソウハチ	1.2ト	476ト
	大田市	230	ソウハチ・ニギス	712kg	164ト
定置網	浜田	53	ブリ・ケンサキイカ・アオリイカ	635kg	33.7ト
	恵曇	52	マアジ・スルメイカ・ケンサキイカ	246kg	12.8ト
	浦郷	22	ブリ・ヒラマサ・クロマグロ・イサキ	809kg	17.8ト
釣・縄	浜田	1,294	ブリ類・アマダイ・ケンサキイカ・スルメイカ	33kg	42.4ト
	五十猛	463	カサゴ類・スルメイカ・アマダイ・ケンサキイカ	32kg	14.7ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。